

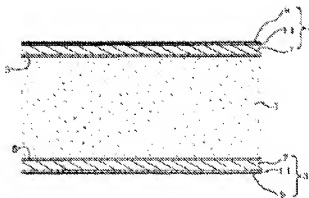
CHOPPING BOARD CUTTING TOOL

Patent number: JP2000343442
Publication date: 2000-12-12
Inventor: SO MASAO
Applicant: SOWA KK
Classification:
- international: **B24D15/04; B24D15/00;** (IPC1-7): B24D15/04
- european:
Application number: JP19990155044 19990602
Priority number(s): JP19990155044 19990602

Report a data error here

Abstract of JP2000343442

PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate a flaw, a stain and the like on the surface of a chopping board by sticking abrasive grains to the surface of base material formed of woven fabric, or paper subjected to water resistance treatment, to form a polishing means, and sticking the polishing means to the surface of a flexible support to cut the surface of the chopping board. **SOLUTION:** A polishing means 3 is fixedly attached to both faces or one face of a flexible support 1 with a water resistant adhesive 5. The polishing means 3 is formed by fixed attaching abrasive grains 9 to the surface of base material 7 with a water resistant adhesive 11. The base material 7 is formed of woven fabric, or paper subjected to water resistance treatment. The support 1 can be pressed to recesses on the surface of a chopping board because of its flexibility. Since the polishing means 3 is formed by fixedly attaching abrasive grains to the base material 7 formed of woven fabric or paper, it has stiffness and sufficiently performs scraping action on the surface of the chopping board. A flow formed on the surface of the chopping board by a kitchen knife can thereby be shaved off, and a stain or the like in the flaw can be easily removed.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-343442
(P2000-343442A)

(43) 公開日 平成12年12月12日 (2000. 12. 12)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	データベース* (参考)
B 2 4 D 15/04		B 2 4 D 15/04	A 3 C 0 6 3

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-155044

(22) 出願日 平成11年6月2日 (1999. 6. 2)

(71) 出願人 500331714

株式会社創和
静岡県焼津市柳新屋39番地

(72) 発明者 宗 正雄

静岡県藤枝市下之郷1605-4

(74) 代理人 100082913

弁理士 長野 光宏

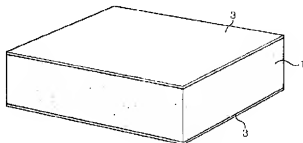
Fターム(参考) 3C063 BG01 BG06 BG13 BG22 BG23
BH07 EE01 FF04

(54) 【発明の名称】 まな板削り具

(57) 【要約】

【課題】 まな板の表面を削ることによりまな板の表面の傷や汚れ等を容易に除去するようにしたまな板削り具を提供する。

【解決手段】 織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材(7)の表面に研磨粒子(9)を耐水性接着剤(11)により固着してなる研磨手段(3)を可撓性を有する支持体(1)の表面に固着したことを特徴とするまな板削り具。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなる研磨手段を可撓性を有する支持体の表面に固着したことを特徴とするまな板削り具。

【請求項2】 織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなる研磨手段を硬質芯材の両面に可撓性部材を固着してなる支持体の表面に固着したことを特徴とするまな板削り具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はまな板削り具に関するものであり、特にまな板の表面に包丁による傷が付いた場合、まな板の表面に付いたこのような傷の中に食品、食材等の小片が入ってまな板の表面が黒ずんだ場合、或いはまな板の表面にカビや汚れがこびり付いた場合等に、該まな板の表面を削ることによりこのような傷や汚れ等を除去するようにしたまな板削り具に係るものである。本発明のまな板削り具は木製又は合成樹脂製のまな板に用いられる。

【0002】

【従来の技術】 まな板はしばしばタワシを用いて洗浄される。また、ナイロン繊維を接着剤により結合させてなる不織布に研磨粒子を接着させてなる洗い具によりまな板を洗浄することも考えられる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、タワシではまな板の表面に付いた包丁による傷を削り取り、或いはこのような傷の中に入り込んだ食品や食材等の小片等を除去することはできない。

【0004】 ナイロン繊維を接着剤により結合させてなる不織布に研磨粒子を接着させてなる洗い具の場合には、該不織布は柔らかで「腰」がないため、まな板の表面に対する掻き取り効果が小さい。従って、このような洗い具により、まな板の表面に付いた包丁による傷を削り取り、或いはこのような傷の中に入り込んだ食品や食材等の小片等を除去することは困難である。

【0005】 このような状況に鑑み、本発明は、まな板の表面を削ることによりまな板の表面の傷や汚れ等を除去するようにしたまな板削り具を提供しようとしてなされたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、本発明は下記のまな板削り具を提供する。

【0007】 (1) 織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなる研磨手段を可撓性を有する支持体の表面に固着したことを特徴とするまな板削り具（請求項1）。

【0008】 (2) 織布又は耐水性処理を施した紙より

なる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなる研磨手段を硬質芯材の両面に可撓性部材を固着してなる支持体の表面に固着したことを特徴とするまな板削り具（請求項2）。

【0009】

【作用】 「請求項1のまな板削り具」請求項1のまな板削り具を用いてまな板の表面を削る際には、まな板削り具を手に持ち、該まな板削り具における研磨手段をまな板の表面に擦り付けるのであるが、研磨手段の目詰まりを防止するためにまな板削り具又はまな板の表面に適宜水をかけながら作業を行なうことが望ましい。なお、研磨手段は織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなるものであるため、耐水性を有することはいうまでもない。

【0010】 研磨手段の支持体は、まな板削り具を持ちやすくすると共に使用者が力を入れてやすくするものである。研磨手段の支持体は可撓性を有するため、まな板の表面に凹部があるときでも、研磨手段を該凹部に押し付けることができる。また、研磨手段は織布又は紙よりなる基材の表面に研磨粒子を固着してなるものであるため、該研磨手段は「腰」があり、まな板の表面に対する掻き取り作用を十分に果たす。従って、まな板の表面に付いた包丁による傷を削り取り、或いはこのような傷の中に入り込んだ食品や食材等の小片若しくは汚れ等を容易に除去することができる。

【0011】 「請求項2のまな板削り具」請求項2のまな板削り具における支持体は硬質芯材を備えているため、まな板の表面に対する掻き取り作用は一層向上する。また、該硬質芯材の両面に可撓性部材が固着されているため、まな板の表面に凹部があるときでも、研磨手段を該凹部に押し付けることができる。その他の点においては、請求項2のまな板削り具は前記請求項1のまな板削り具と同様の作用を有する。

【0012】

【発明の実施の形態】 次に、本発明の実施の形態を添付図面に従って説明する。図1、図2に示す事例において、符号1に示すものは可撓性を有する支持体である。支持体1は例えば合成樹脂製の発泡体、ゴム等により形成する。この支持体1の両面ないし片面に研磨手段3を耐水性接着剤5により固着する。研磨手段3は基材7の表面に研磨粒子9を耐水性接着剤11により固着してなるものである。基材7は、織布よりなるものであってもよいが、耐水性処理を施した紙よりなるものであってもよい。図3における符号10に示すものはまな板である。

【0013】 図3、図4に示す事例における支持体1'は硬質芯材13の両面に可撓性部材15を固着してなるものである。硬質芯材13は例えば木材又は合成樹脂により形成する。可撓性部材15は例えば合成樹脂製の発泡体、ゴム等により形成する。その他の点においては、図3、図4に示す事例は上記図1、図2に示す事例と同様

である。

【0014】

【発明の効果】〔請求項1のまな板削り具〕請求項1のまな板削り具は可撓性を有する支持体の表面に研磨手段を固着してなるものであるため、手に持ちやすいと共に力を入れやすいものである。研磨手段の支持体は可撓性を有するため、まな板の表面に凹部があるときでも、研磨手段を該凹部に押し付けることができる。また、研磨手段は織布又は紙よりなる基材の表面に研磨粒子を固着してなるものであるため、該研磨手段は「腹」があり、まな板の表面に対する掻き取り効果を十分に発揮する。従って、まな板の表面に付いた包丁による傷を削り取り、或いはこのような傷の中に入り込んだ食品や食材等の小片若しくは汚れ等を容易に且つ効率よく除去することができる。なお、研磨手段は織布又は耐水性処理を施した紙よりなる基材の表面に研磨粒子を耐水性接着剤により固着してなるものであるため、耐水性を有することはいふまでもない。

【0015】〔請求項2のまな板削り具〕請求項2のまな板削り具における支持体は硬質芯材を備えているため、まな板の表面に対する掻き取り効果は更に顕著なものとなる。また、該硬質芯材の両面に可撓性部材が固着されているため、まな板の表面に凹部があるときでも、

研磨手段を該凹部に押し付けることができる。その他の点においては、請求項2のまな板削り具は前記請求項1のまな板削り具と同様の効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるまな板削り具の一例を示す斜視図である。

【図2】同上まな板削り具の断面図である。

【図3】本発明によるまな板削り具の別の一例を示す斜視図である。

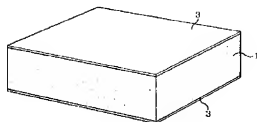
【図4】同上まな板削り具の断面図である。

【図5】本発明によるまな板削り具の使用状態を示す側面図である。

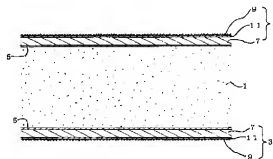
【符号の説明】

- 1 支持体
- 1' 支持体
- 3 研磨手段
- 5 耐水性接着剤
- 7 基材
- 9 研磨粒子
- 10 まな板
- 11 耐水性接着剤
- 13 硬質芯材
- 15 可撓性部材

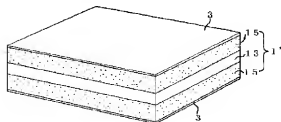
【図1】



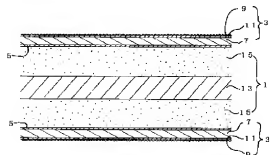
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

